

ライフエクストラ大泉学園店 vs サミットストア石神井台店

改装店対決 惣菜編

城取フードサービス研究所

城取 博幸

ライフの「焼魚コーナー」、サミットの「グリルキッチン&オードブルコーナー」

ライフ大泉学園店惣菜のレイアウト。生鮮食品は、くだもの、青果、第2コーナーつきあたりに鮮魚、続いて加工肉と続き、第3コーナーつきあたりが精肉、第4コーナーつきあたりが惣菜という一般的なレイアウトである。惣菜はL字型で、客動線に沿って、寿司、弁当、丼、おにぎり、バックヤードからの通路を挟んだ付きあたりに、フライバラ、天ぷらバラ、焼きとりバラ、焼き魚パック、スナック類、揚物パックと続く。特に鮮魚の売場を広くとった「生鮮強化型」のレイアウトである。

一方、サミット石神井台店のレイアウトは、くだもの、青果、第2コーナーのつきあたりが鮮魚のキッチンコーナー、通路を挟み中央に惣菜が続き、第3コーナーのつきあたりが精肉、第4コーナーのつきあたりがインスタベーカーリーとホールセールパン。中央部分の惣菜は、客動線に沿って、サラダ、和惣菜、寿司、めん類、レンジ商品、弁当、揚物パック、バラ販売、肉惣菜、オードブル食材と続く。中央の一等地の壁面に惣菜売場を広くとった「惣菜強化型」のレイアウトである。

両店とも店の角（コーナー）の「マグネット売場」がはっきりとしているのが特徴である。サミットの惣菜は、以前に調査した成城店で新たに導入した「グリルキッチン」「オードブル（生食）」コーナーが惣菜売場に併設されているのが特徴である。

ライフは、インスタで焼かれた「焼魚コーナー」縦割4尺の売場が印象的である。

新コーナーを除けば、品揃え、価格ともほぼ同じ。

主力商品の最低価格比較では、「コロツケバラ」両店とも100円、「豚ロースとんかつバラ」両店とも360円、「焼きとりバラ」、ライフ100円、サミット110円、「鶏唐揚げパック」は、両店とも200円以下の規格が品揃えされている。「おにぎり」最低価格は、ライフ100円、サミット105円、「弁当」は、両店とも最低価格は398円。

「いなり寿司」ライフ3個168円、サミット3個150円、「にぎり寿司」ライフ10カン598円、サミット6カン398円、「ポテトサラダ（小）」ライフは小パックが品切れだが（11時30分時点）、他の少量パックの価格からして98円と予測。サミット100円、「ひじきの煮物（小）」ライフ98円、サミット118円。

売れ筋の「冷しうどん&丼」は両店とも品揃えはなかった。お互いによく価格調査を行いなるべく価格を合わせるようにしている。

サミットは寿司コーナーで「98円均一セール」を実施中。品揃えアイテムは、細巻寿司、ジャンボいなり、中巻寿司二分の一カット、手巻寿司など14品目と豊富な品揃え。

どこで特徴をだすにか

アイテム数比較 ライフ 「フライ類バラ」10アイテム、「天ぷらバラ」6アイテム、「焼きとりバラ」9アイテム、「インスタ焼魚」7アイテム、「サラダ」23アイテム、「和惣菜」29アイテム。

サミット 「フライ類バラ」11アイテム、「天ぷらバラ」4アイテム、「焼きとりバラ」14アイテム、「サラダ」16アイテム、「和惣菜」19アイテム。

アイテム数もあまり大差はないが、ライフは「やきとり」のSKUが少ない代わりに、「焼魚」を7アイテム品揃えしているのが特徴である。サミットの「レンジアップ商品398円」は値引きが目立っていた。

「鶏の唐揚げの味比較」ライフ、サミットとも冷凍のプリフライの鶏唐揚げではなく、チルドの原料を揚げたものである。ライフの商品の方が鶏の味付けが薄い。両店ともカラッと揚げていて出来上がりはよかった。

「煮物の比較」メーカーは同じであるが味が違う煮物。ライフ「八品目の田舎風煮物」、サミット「筑前煮」。ライフの野菜のカットは一口サイズで色どりがよい、サミットの野菜はレンコンなどのカットが大きく、少し濃いめの味だが野菜の食感がよい。

ライフの「塩焼きサバ」と、サミットの「レバーかつ」

インスタ加工にこだわるサミットに対し、アウトパック化を積極的に進めるライフの対照的な姿勢は、ライフの弁当は、アウトパック弁当10アイテム、インスタ製造丼6アイテム。白ご飯は50パック程陳列されていた。サミットはインスタ弁当、丼など特徴ある品揃え。ライフの「焼魚コーナー」の「塩焼きサバ1枚198円」を試食したが、フワッと焼いてあり、脂ものり塩の塩梅もよかった。サミットの「レバーかつ（串）1枚98円」を試食。レバーは少し臭みはあるもののソースとよく合っている。レバーメニューの少ないスーパーマーケットの惣菜としては貴重なアイテムだ。

惣菜部門の総括

インスタ加工からアウトパック商品に切り替えた場合、マンパワーを何に投入するのか。ライフはインスタ弁当を作らない代わりに、丼、焼魚を強化しているが、やはりインスタ弁当のない売場は、主役が欠けている感じだ。サミットは、惣菜は今までとあまり変わらないが、「グリルキッチン」と「オードブル」を惣菜コーナーの隣にレイアウトした。現在のスーパーマーケットの惣菜の品揃えは、ほぼどこも同じである中、「新コーナー」「特徴ある商品1品」が、お客には印象が残る。

「野菜サラダ」のアイテムが拡大されているが、「蒸し野菜」へのチャレンジも必要。ライフの青果コーナーのケース上段には、根菜類を中心とした、袋入り「蒸し野菜」198円が5アイテム程品揃えされていた。

惣菜コーナーでも「身体を温める野菜」と「身体を冷す野菜」とバランスの取れた商品の品揃えを期待したい。

惣菜の主な商品の最低価格

	ライフ 大泉学園店	サミット 石神井台店
肉コロケ	1個 100円	1個 100円
豚ロースとんかつ	1枚 360円	1枚 360円
やきとり	1本 100円	1本 110円
鶏唐揚げ(最低価格)	1パック 196円	1パック 152円
おにぎり	1個 100円～	1個 105円～
弁当	1パック 398円～	1パック 398円～
いなり寿司	3個入り 168円	3個入り 150円
にぎり寿司	10カン 598円	6カン 398円
おはぎ	1個 130円	
ポテトサラダ	中1パック 198円	小1パック 100円
ひじき煮 小	1パック 98円	1パック 118円

*ライフ 「ポテトサラダ 小パック」は、5月15日 11時時点 品切れ

*サミット 「おはぎ」 5月15日 14時時点 品揃え無し

ライフエクストラ大泉学園店 vs サミットストア石神井台店

改装店対決 日配編

城取フードサービス研究所

城取 博幸

両店のレイアウトの特徴

日配のレイアウトの苦労したライフ、従来型のレイアウトのサミット

ライフ大泉学園店のレイアウト。鮮魚売場拡大のため和日配品の売場が分散した変形レイアウト。入口青果の左側の多段ケースに、水物（漬物、豆腐、納豆）、野菜売場の付きあたりに練製品、こんにゃく、佃煮、鮮魚売場と加工肉売場との間にチルド麺、第3コーナーの精肉売場付近に洋日配をレイアウトしてある。問題は和日配売場が分散してしまい、他の食材との関連性が薄くなってしまったことだ。練製品、こんにゃく、佃煮売場はコンコースから外れているため、ともすれば、買い逃してしまうレイアウトである。和日配のゾーン内にチルド麺売場や中華売場のスペースが確保できず、中華売場は、洋日配の乳酸菌飲料とチルドピザの間に仕方なくはめ込んだという形になってしまった。パン売場も通路が狭く全体的な印象は、日配品に関しては少し買いづらい売場だ。

一方、サミット石神井台店の日配のレイアウトは、青果売場の近くの多段ケースに水物（豆腐、揚げ、納豆、こんにゃく、中華）、鮮魚前のアイランドケースに練製品と水産加工品。漬物、佃煮、煮豆、和惣菜は洋日配側のコンコースから外れた内側の場所にレイアウトされているため、ともすれば買い忘れされそうな場所である。「中華の具材」は、野菜売場のもやしやカット野菜などの「炒め物野菜」の隣にレイアウトされて関連性が高い。

洋日配は、精肉前の多段アイランドケースにまとめて陳列。惣菜売場を中央に配置して強化したため、生鮮食品売場、惣菜売場、インスタベーカーリーがコンコース壁面側をグルッと囲む形となった。この店も和日配が端に追いやられた感がある。

NB商品で押すライフ、内容変更で割安感をだすサミット

豆腐の最低価格は、300g比較でサミットが48円、ライフが68円とサミットの方が安かったが、200g少量パックの比較では、ライフ98円、サミット118円とライフの方が安かった。納豆の3段重ねは両店とも1パック88円。

表にもある通り、サミットの「ゆでうどん（180g）」、「生ちくわ（4本入り）」、「白菜漬（250g）」、「ミックスサイズたまご（10個入り）」と内容を減らし最低価格を実現している。そのせいか価格の印象はサミットの方が安く感じる。しかし、両店とも、最低価格品をケース最下段で販売している訳ではない。

季節を打ち出すライフの「塩漬け枝豆、塩漬けそら豆、ひたし豆、青えんどう、冷凍枝豆」

ライフの漬物コーナーには、巾着袋入りの「塩漬け枝豆（殻付き）」とトップシール透明円形トレイの「塩漬けそら豆」が販売されていた。その他、煮豆コーナーには、「ひたし豆」「青えんどう」、冷凍食品の「冷凍枝豆400g（198円）」とシーズンを迎えている「さや豆」の品揃えが充実している。「塩漬け枝豆」と「塩漬けそら豆」を購入して試食してみ

た。「塩漬け枝豆」は適度に塩味が付いていて色もよく、食感も試食者には好評であった。青果コーナーだけでなく、和日配のコーナーでも十分季節感をだしていることに感心。

ノスタルジーを感じさせる、サミットの「トレー入り十勝産ふっくら金時」、「高菜炒め」「ハム入りお魚かつ」「ホットケーキ」

サミットの佃煮、煮豆コーナーには、トレー入りの「十勝ふっくら金時」「高菜炒め」「味付けメンマ」など、何故か懐かしい商品が並んでいる。これらの商品は、最近では真空の袋入りに変わっているが、トレーの方が表現力がある。購入して試食してみると、「十勝ふっくら金時」はつぶれタイプの煮豆で、少し甘さはあるもののスタンドパック、惣菜の煮豆では出せない味である。「高菜炒め」は薄味で味が良かった。

その他、関西以西では、「魚ロッケ」などで人気がある、「魚のすり身かつ」。練製品は「天ぷら」と「フライ」がある。関東地方でフライに挑戦している店は少ない。その他、サミットの「魚の甘露煮、佃煮」の品揃えも充実して、高齢化対策がなされている。6枚入りチルドホットケーキ（ソース付き）298円と手ごろな価格で販売されている。

小家族化、単身化商品として、「少量液入り浅漬けパック2段重ね 128円～」の品揃えもうれしい商品だ。

「タレなし温泉卵4個入り228円」

使用用途が変われば商品も変わる「温泉卵」

両店とも納豆コーナーで「タレなし温泉卵4個入り 228円」を販売していた。ゴールドスペースに陳列して「納豆に温泉卵」を訴求。両店とも値引きが出ていないため、そこそこ売れているようだ。温泉卵のレギュラー品は、「タレ付き温泉卵3個入り 118円～128円」が通常、特売では98円でたまに販売される。温泉卵も販売場所、使用用途を訴求すれば、2倍の価格でも売れることを証明している販売方法である。

パーソナル飲料のバンドル販売

パーソナル飲料もシーズンを迎え両店とも販売に力を入れている。ライフ「果汁飲料200ml 3本258円」、サミット「野菜飲料200ml 3本248円」のバンドルで販売。カフェオレやコーヒーなどの「カップ入り飲料」の売場は思ったほど広くない。シーズン、気温によって売場を臨機応変に変えているのは見習いたい。

和日配はまだ商品開発、産地開発の余地あり

NB商品の価格合戦は、スーパーマーケットにおいては、そろそろ終結し底値が決まったようである。納豆48円などの極端な価格のEDLPは、販売点数が上がりず売上アップにならないことが検証されたからだ。

それより、地域の底値をおさえつつ、両店とも特徴ある品揃えの強化を図っている。長い間、価格に対する関心が強かったが、両店を見る限り、日配部門はまだまだ特徴のある商品の商品開発ができる部門であることを再認識した売場であった。

日配の主な商品の最低価格

	ライフ 大泉学園店	サミット 石神井台店
豆腐	300g 68円	300g 48円
豆腐 少量パック	200g 98円	200g 118円
納豆 三段重ね	1パック 88円	1パック 88円
ゆでうどん	200g×3 1袋 128円	180g×3 1袋 148円
NB焼きそば 3食	1袋 178円	1袋 168円 PB 1袋 138円
生ちくわ	5本入り 105円	4本入り 98円
白菜漬け	300g 198円	250g 198円
牛乳 無調整	1ℓ 178円	1ℓ 168円
プレーンヨーグルト	1パック 158円	1パック 148円
食パン 6枚入り	1袋 128円	1袋 128円
卵 10個入り	赤たまご 198円	ミックス 158円
冷凍枝豆 400g	1袋 198円	1袋 258円

*ライフ調査日時 5月15日 AM11時～12時

*サミット調査日時 5月15日 PM2時～3時